

最近のオーストラリアの経済・市場環境について

Insights from UBS Asset Management

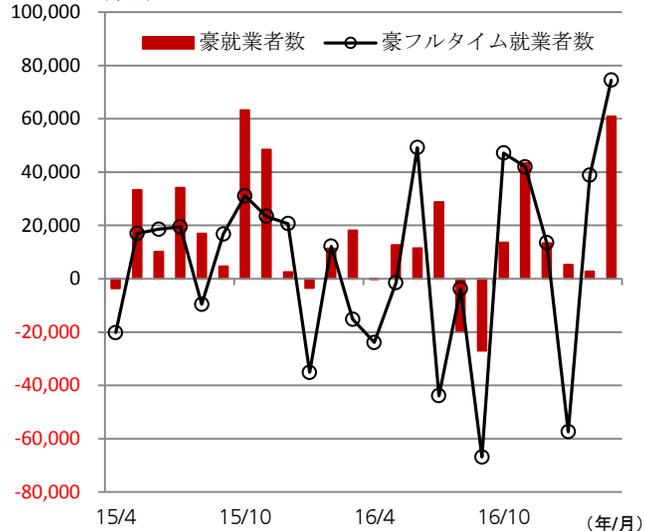
ポイント

- ・オーストラリア経済では、労働市場に改善の兆し、豪中銀は、不動産価格の上昇に強い警戒。
- ・労働市場の回復、不動産価格の過熱が継続した場合、金融引き締めによる対応も必要に。
- ・足元の豪ドルの調整は、底堅い豪ファンダメンタルズを踏まえると、限定的な動きとなる可能性も。

豪就業者数、3月は予想を上回る大幅増

4月12日、豪連邦統計局から3月の雇用統計が発表され、就業者数は前月比6万900人増となり、市場予想(2万人増)を大幅に上回りました。失業率は前月の5.9%から変化はありませんでしたが、就業者数の増加幅(6万900人)は1年半ぶりの大きさとなりました。大幅増の要因は、フルタイム従業員が7万4500人増加したことにあります。ここ1年近く、パートタイムではなく正社員主導での就業者の増加は、豪経済の回復を示唆する動きと見られています。

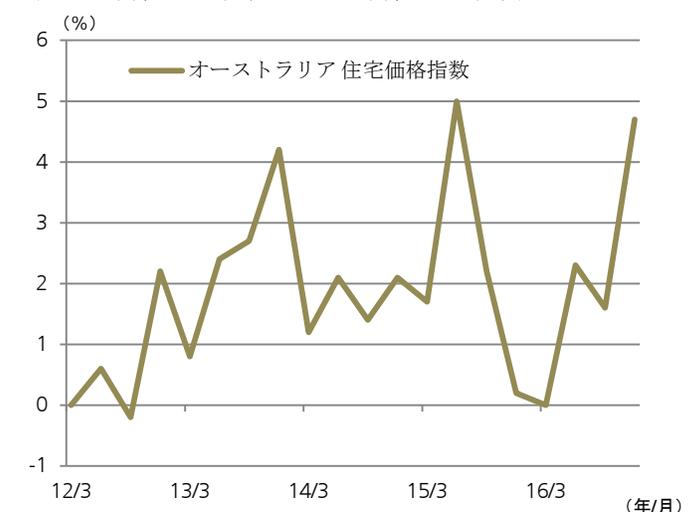
■豪就業者の推移(2015年4月~2017年3月)
(千人)



豪中銀、不動産価格上昇への警戒を強める

13日には豪中銀が金融安定化報告を発表しました。家計債務の増加や、シドニーとメルボルンなど豪不動産価格上昇【図2】に伴う「リスクの高まり」について、懸念を強めていることが示唆されました。4日のRBA理事会では、金融規制による対応などが示されています。こうした対応でも住宅市場の過熱感が後退しない場合は、結局金融引き締めによる対応が必要となると見られています。現在市場が織り込みつつある来年央の利上げ開始時期が早まる可能性にも注意が必要です。

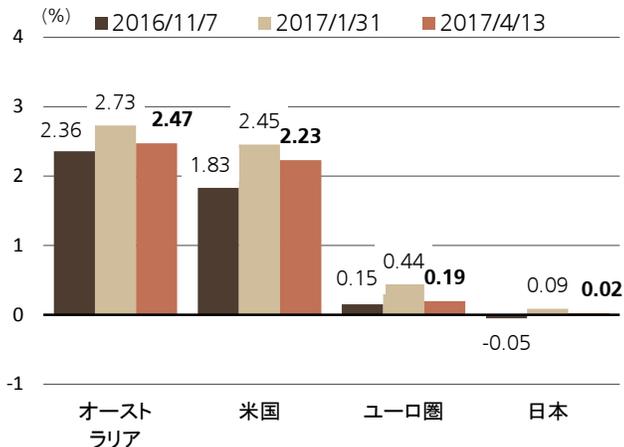
■豪住宅価格指数の変化率
(2012年第1四半期~2016年第4四半期)



後退するトランプ期待、高まる地政学リスク

米トランプ政策期待の後退から米国金利が低下し、それに伴いオーストラリア債券利回りも低下しました。加えて、北朝鮮を始めとする地政学的リスクを材料視する傾向が強まり、質への逃避が見られています。一方、オーストラリア 10 年国債の利回りは、相対的に高く、信用力の高いオーストラリア債券の相対的な魅力度は高いと考えられます。

■主な 10 年国債利回りの変化



地政学リスク、資源、そして豪ドルの見通し

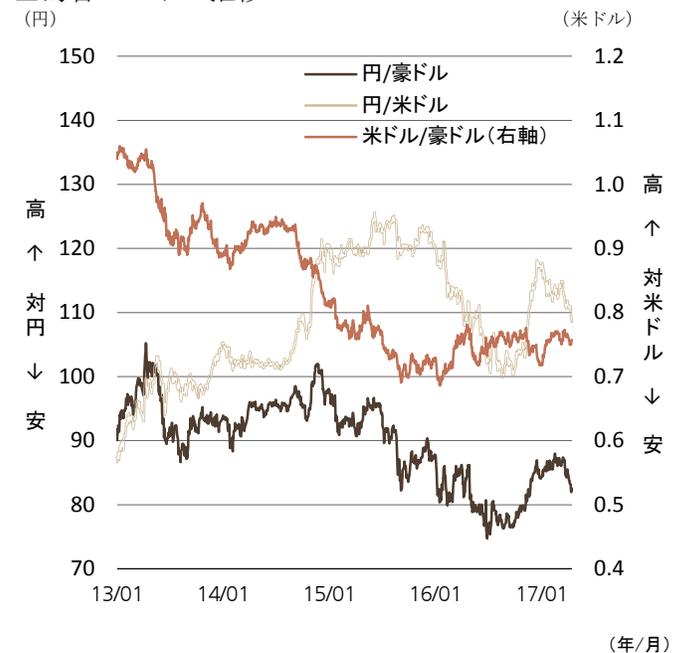
足元での豪ドルは調整が進行し、対円では 80 円前半で推移しております。①昨年からの堅調であった鉄鉱石価格の下落や、②アジアでの地政学リスクの高まりなどリスクオフの動きが、その背景となっています。

資源価格については、足元では鉄鉱石価格に調整の動きが強まるも、石炭価格はむしろ上昇しており、資源価格は全面安とはなっていません。今後も米国など多くの国でインフラ投資が拡大する計画であることから、大幅な値崩れの可能性は低いと見られています。特に中国では、政府主導の投資拡大により経済の安定感が強まっています。加えて 1-3 月の北朝鮮からの石炭輸入を前年同期比 51.6%減らしており、北朝鮮を巡る国際問題も豪州の資源輸出にはプラスに働く可能性があります。

地政学リスクについては、北朝鮮を巡る地政学リスクの強まりにより、円は逃避通貨となりやすく、ドル/円相場でマイナスの影響が続く可能性があります。ただし、豪ドルは対米ドルにおいては、豪雇用統計や中国の貿易統計などでの明るい兆候や、トランプ米政権のドル高牽制姿勢及び低金利志向が下支えすると見られています。

今後の豪ドル相場については、引き続き地政学リスクや資源動向に注意が必要となります。一方、豪州経済のファンダメンタルズに底堅さが強まる中、対円でアベノミクス以降の 80~100 円程度のボックス圏相場における下値水準に近づいている点に注目しています。

■為替レート推移



出所： トムソンロイター

上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 412 号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとに UBS アセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2017. キーシンボル及び UBS の各標章は、UBS の登録又は未登録商標です。UBS は全ての権利を留保します。